

Ja-Net

July 2014 No. 70

季刊ジャネット

Ja-Net は Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次

2014年7月25日発行

- View from the Other Side 3
ガラハーニー・ファテメさん(イラン)
- あちこち日本語ご紹介〈国内編〉..... 4
東京都 江東区
- あちこち日本語ご紹介〈海外編〉..... 5
シンガポール
- 教材紹介 6
『みんなの日本語 初級I 第2版 CD5枚セット』
『みんなの日本語 中級II 教え方の手引き』
『タスクで学ぶ日本語ビジネスメール・ビジネス文書』
- なんでも情報 BOX 8

スリーエーネットワーク

巻頭
寄稿

日本語教育が地域に貢献できること

—豊田市と名古屋大学の連携を参考に—

北村 祐人

名古屋大学

とよた日本語学習支援システム



地域における日本語教育の現状

日本に住む約 200 万人の外国人のうち、日本語教育を受けているのは、約 14 万人とされています。その中で、地域日本語教室で学習するのは、約 6 万人です(文化庁文化庁国語課 2012『平成 24 年度国内の日本語教育の概要』)。特に、外国人が急増した 1990 年の改正入管法施行以降、地域日本語教室は日系南米人や技能実習生等の参加者が目立ち、多様な学習者の貴重な学びの場として機能し始めました。私が活動する愛知県豊田市でも、自動車産業の活況と経済のグローバル化の進展により外国人住民が急増し、それに応じた取り組みが行われてきました。ここでは、それらの状況について紹介します。

豊田市の現状

豊田市は、13,096 人の外国人が在住し、その数が総人口に占める比率は 3.11%です(2014 年 4 月現在)。また、外国人住民のうち約 4 割がブラジル人という特徴も持っています。これだけではなく、住民の 45%が外国人という「保見団地」がある点も有名です。このような外国人の集住により、日本

語を使わずに生活できる環境が整っています。また、行政側も外国人の増加によって、通訳や翻訳された案内文書等を整備しました。そのことがかえって、外国人と日本人社会との隔たりを深くしたとの指摘もあります。このような外国人が日本語を学ぶ機会もなく、地域と交流も持たず暮らす状況は、約 15 年前から指摘されてきました。

2007 年、豊田市は外国人住民を取り巻く状況の改善を目指して、本格的に日本語教育に取り組むことにしました。当時から豊田市には、専門的に日本語教育を実施・研究する高等教育機関はありません。そこで、近隣の名古屋大学に相談がありました。当初の相談内容は、地域の日本語教室で使える「教材づくり」でした。しかし教材をつくっても、外国人の生活実態に合った学習の機会や学習内容が整わなければ、使われずに終わってしまいます。また、日本語学習のインセンティブを社会に提示できなければ、日本語を学ぼうとする外国人も増えないと考えました。そこで豊田市は、「いつ、どこで日本語教室を開けば外国人は通いやすいのか」「地域や企業では、どんな教室活動が求められているのか」等を把握するための



日本語教室の様子

調査を名古屋大学に委託しました。

この調査では、外国人住民と日本人住民、企業や公的機関の担当者等に、外国人住民の日本語能力の実態と希望等を聞き取り・アンケート調査しました。その結果、外国人住民はなかなか学習の時間がとれないことから、家の近くでの学習機会や遠隔学習を求めていることがわかりました。また、「日本人と外国人とが歩み寄ることが必要」「お互いの言葉が少しでもわかるように努力することが大事」等の意見が聞かれました。このことから、日本語学習の機会を保障し提供することはもちろん、日本人住民と外国人住民との心の壁をなくすことが重要だとわかりました。この調査結果に基づいて、外国人住民への日本語教育の体制を整備することに加え、日本人住民に対しても、外国人への配慮ある関わり方ができる社会体

制の整備が提案されています(名古屋大学留学生センター 2008『外国籍住民の日本語学習における実態等予備調査委託調査報告書』)。

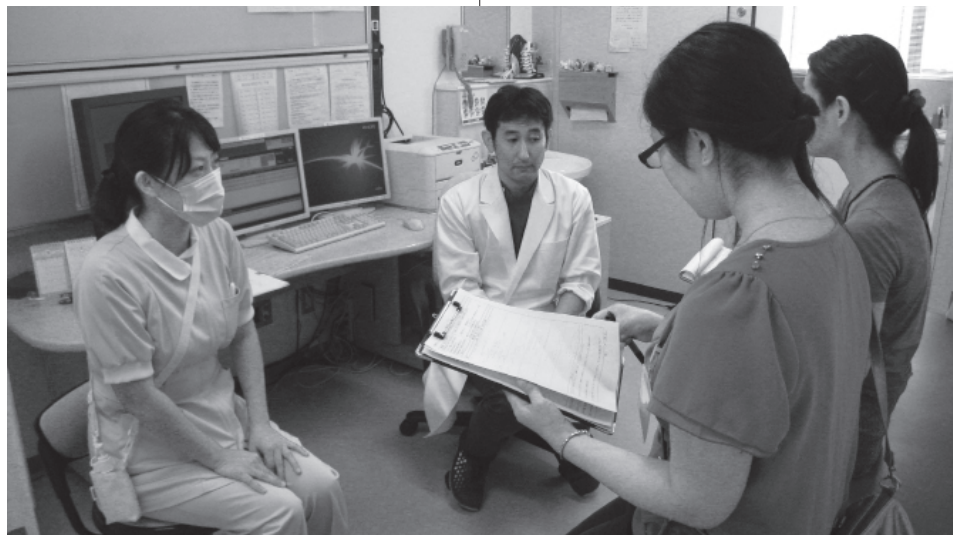
とよた日本語学習支援システムの構築

名古屋大学は、2008年度より豊田市からとよた日本語学習支援システム(以下、とよたシステム)の構築・運用の事業を受託しました。この事業では、日本語教室の開設・運営支援を中心とし、そこでのクラス分けや学習の進捗を知るための日本語能力判定の開発・実施、それらの実施のための人材育成を行っています。また、日本語教室に来られない人のためのeラーニング、iPhoneの学習アプリケーションの開発・運用等も行い、住民全体への還元となる日本語学習の体制を進めてきました。また、教室の担当者を派遣することによって、身近な場所で学習できるようにしています。さらに、それらの運営方法等を「とよた日本語学習支援ガイドライン(以下、ガイドライン)」としてまとめ、とよたシステムに関わる人や他地域の人たちが参考にできるようにホームページで公開しています。

加えて、日本語教育を独自で実施する人や企業等からの相談に乗ったり、日本語教育が円滑に進み、学習者や支援者が簡単に教室にアクセスできるようなしくみの構築に取り組んできました。このような、日本語教育を推進する様々な要素や人・機関を連携させ動かすことを「しくみ」という意味で「システム」と呼んでいます。システムという言葉を使ったのは、日本語を学ぶ側、それをサポートする側に関係なく、日本語学習支援の体制をつくるのが目的だからです。行政がそれを、専門機関である大学、企業や公的機関等の共働の元に行っていることも、とよたシステムの特徴です。ガイドラインが実態に合わなくなった時には、ガイドラインや方法を変え、少しずつ修正し、運用しています。

導入教育カリキュラムの開発について

とよたシステムが、地域に在住する外国人の学習機会の保障のために運用されていることは、先に述べたとおりです。しかし、地域で働き、生活する外国人にとって必要なのは、日本語だけではなく、生活ルールや、医療、教育等に関する知識(以下、



導入教育カリキュラム開発での医師・看護師へのフィードバックの様子

生活知識)は日常的に必要ですし、救急・防災等については有事の際に生命を守ることに繋がります。そのため、日本語教育以外に、生活知識を学べるしくみも地域で暮らす外国人には不可欠です。このような情報の多くは翻訳されていますが、少数言語までの対応が難しいこと、外国人の手に届きにくい等の課題があります。そこで、これらの生活知識に関する内容を日本語教室での題材として取り上げることで、多くの外国人へ周知しようと考えました。また、学習者のレベルに合わせて、市役所の担当課等の担当者に説明や資料を書き換えてもらうことで、受け入れる側への働きかけも行うことを構想しました。

こうして、名古屋大学は2013年度より豊田市から「導入教育カリキュラム等の追加」についても受託しました。この事業では、日本の暮らしへの適応促進を目的として、豊田市の関係機関(病院、消防本部、防災対策課、教育委員会等)の協力を得て、外国人対象の講義を行っていただきました。この講義は、関係機関の負担とならないように、豊田市がすでに持っていた「生涯学習出前講座」という一般市民向けの講義制度を活用しました。そして、内容、資料、話し方等を日本語教育の専門家等と関係機関が連携して考えました。こうした機会は、多くの機関が必要と感じており、外国人への対応を考える契機となったようです。

また、これらの講義は撮影し、いつでも使えるようにDVD教材としてまとめました。2013年度は、医療、防災、ごみ、救急、図書館の5つのテーマのDVD教材を作成しました。今年度は、さらに5テーマを追加し、

日本語教室や外国人の集まる場所での活用に取り組んでいます。

誰もが暮らしやすい街づくりを目指して

地域日本語教育分野では、年々課題が複雑化しています。こうした中、専門家が行政と関わる必要性は、多くの現場関係者が感じています。一方で、そのような取り組みの例は少ないのが現状です。このことから、ここで紹介した取り組みの意義は大きいと感じています。また、その対象は、外国人住民と日本人住民の双方です。外国人が暮らしやすい街は、日本人住民も暮らしやすい街のはずです。このような、様々な立場の視点は、今後の日本語教育にも示唆を与えてくれることでしょう。

北村 祐人 (きたむら ゆうと)

名古屋大学とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター。

地域日本語教室でボランティア活動を経験したのち、2008年より名古屋大学と豊田市が共働して取り組む「とよた日本語学習支援システム」の構築に携わり、日本語教室のコースデザインや日本語能力判定の開発等にも関わった。2010年から現職。様々な関係機関や学習者、日本語学習支援者との連携及び他地域への発信等に奔走している。

「とよた日本語学習支援システム」について

お問い合わせ先:

名古屋大学とよた日本語学習支援システム

<http://www.toyota-j.com/>

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

日本に来てよかった

第二の故郷となった日本

失敗は成功のもと

私は高校生の時、理系を専攻し、優れた成績で高校を卒業しました。両親の期待のもと、医大を受験したのですが、全く予想しなかったことに、私は受験に失敗してしまいました。失敗の経験がなかった私は毎日泣いてばかりいましたが、「失敗は成功のもと」ということわざがあるように、医大の選考に落ちた「失敗」は私の「成功」のもとになりました。実は私は血を見るだけで力が抜けてしまい、医学には向いていませんでした。私が興味を持っていたのは言語学だったのです。

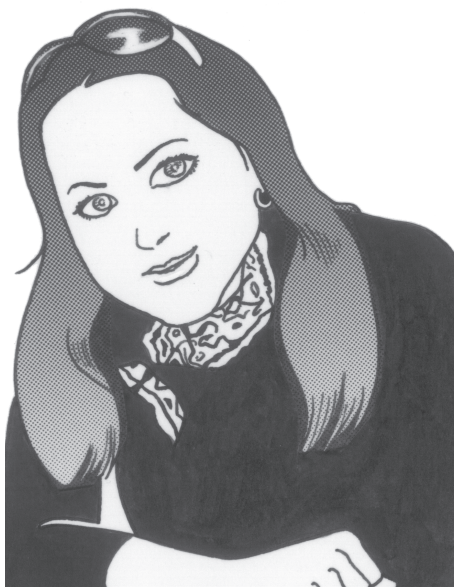
子供の頃、毎週土曜の夜は大好きなドラマ「おしん」を見ることが欠かせませんでした。どんな困難にも諦めず頑張っていた主人公の姿はいまだに忘れられません。ドラマで見た着物や箸、そしてドラマの終わりに出てくる、ペルシア語と全く違う日本語は興味深く、その時から日本や日本の文化、日本語に興味を持つようになりました。

そして、私は2回目の大学受験でテヘラン大学外国語学部日本語・日本文学科に合格しました。大好きな日本語が読み書きできるようになり、日本に関する知識も深めることができました。そして、勉強すればするほど、日本を近くから見るのが夢になってきました。幸い、文部科学省の試験に合格し、日本語・日本文化研究生として1年間留学できることになりました。

侍と「おしん」とテクノロジーの国？

初めて日本に来た時は、侍の国、「おしん」の国、そして世界の中でも人気のテクノロジーが優れているロボットの国へ行くようなイメージがありました。日本ではみんな着物を着て、お辞儀をしていて、ドアは自動的に開き、なんでも機械がやってくれると思っていました。

私が初めて行った街はつくば市でした。つくば市は研究機関が多い学術・研究都市



ガラハーニー・ファテメさん

イラン・テヘラン市出身。テヘラン大学日本語教育学科修士号取得。

2001年日本語・日本文化研究生として来日、筑波大学に1年間留学。2005年春、地震関係の専門用語の研究のため、神戸大学に短期留学。2007年夏、国際交流基金日本語国際センターで教授法プログラムに参加。2011年に再来日。東京外国語大学で研究生として学んだ後、2012年より一橋大学言語社会研究科博士課程に在籍。

である一方、豊かな田園風景が広がる場所です。着物や侍のイメージで日本に来た私は、茶髪にピアスの男子学生や、講義中に携帯を触ったり、先生の前で居眠りしている学生を見てとてもびっくりしました。

また、私が住むことになった寮はとても古い建物で、自動ドアもエレベーターもなく、シャワー、トイレ、台所は共用で、自転車通学というのが現実でした。イランの首都テヘランに住んでいた頃、エレベーターのある自宅マンションから車で大学に通っていた私は「本当にここは日本か」と思いました。

帰国後は留学経験を生かし、日本語を教えたり、翻訳・通訳といった日本語に関わる仕事や活動をしながら、テヘラン大学日本語教育学科で修士号を取得しました。しかし、満足感が得られず、更なる研究や勉強のため、再び来日しました。現在、一橋大学言語社会研究科の博士課程で勉強してい

ます。英語を通してペルシア語に翻訳されている日本語の小説を対象に、異文化及び重訳が与える影響、またはそれに使用された翻訳ストラテジーを研究しています。

日本の素晴らしいところと気になるところ

日本の安全な社会とお客に対するサービスは私が懂れている日本の特徴です。これらは世界中の国と比べ、日本の最も素晴らしいところだと思います。

しかし、少し気になることもあります。秩序が保たれていることはいいと思うのですが、それに伴ってストレスがたまってしまうということです。イランでは約束の時間に間に合わない場合は「渋滞などで間に合わなかった」と謝ることで済みます。試験はとても厳しいですが、レポートなどは期限に間に合わなければ、あとで提出してもいいという場合もあります。これは全ていいことだとは思いますが、ストレスがたまらないのはいいと言えるでしょう。

もう一つ気になることは日本人が働き過ぎではないだろうかということです。多くの日本人は朝から晩までずっと働いて、夜疲れて帰って、寝ます。イランでは毎日夕方5時頃まで働き、帰って家族や友達と時間を過ごす人が多いので、全く違います。

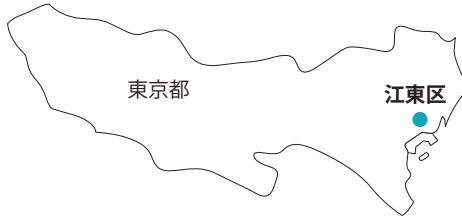
日本人はせつかく安全な環境で暮らしているのに、それをストレスや働きすぎで無駄にするのはもったいないと思います。それぞれの国には短所もあれば長所もあるので、短所を補って、問題を解決し、長所を生かすように、お互いの良いところを学びあい、努力できればいいのではないかと思います。

日本語や日本に関する勉強をしてきた時間は、これまでの人生の三分の一を占めるようになりました。私にとって、日本は第二の故郷となり、愛国心も持っています。日本語を勉強して、日本に来て本当によかったと改めて思います。



国内編

東京都 江東区



日本語学習がキャリアとなり社会貢献になる!

武蔵野大学 同
堀井恵子 島田徳子

武蔵野大学大学院ビジネス日本語コースが開設されてから来年で10年目となります。修了生が国内外の様々な分野で活躍している様子を伝えてくれますが、この春の修了生の一人は、新入社員研修で唯一の留学生である自分の書いたものがビジネス文書のモデルとしてみんなに紹介されたと言っていました。

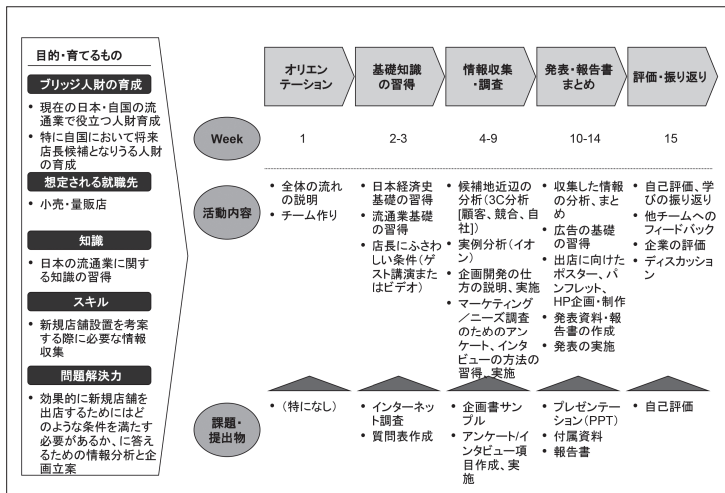
グローバル化の進展とともに国と国の間をつなぐ人材のニーズが高まっています。日本、日系企業など日本と関係のある企業からは日本語を使って仕事を遂行する外国人材の育成が要請されています。一方、日本語学習者にとっても、身に着けた日本語を使ってキャリアを積みたい、具体的には卒業後、日本、日系企業など日本と関係のある企業に就職したいという強い希望があります。しかし、学習者が日本語を使って仕事をしたいためには、従来求められていた日本語能力だけでは十分ではありません。そこで、ビジネス日本語教育が開発されていますが、ニーズの高さの割にはビジネス日本語教育を研究し、教育実践をする教師はまだ少な

いのが現状です。

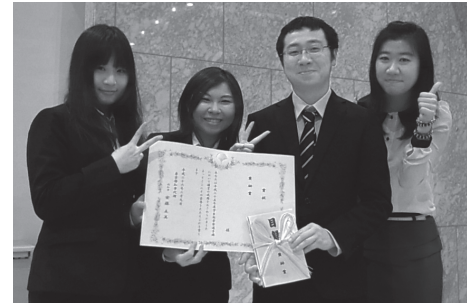
2006年のコース開始前後は、それまでになかった分野であるため、シラバスやカリキュラム、教材作成に苦労しましたが、幸い、時を同じく経済産業省のアジア人財資金構想が策定され、筆者もカリキュラムマネジメント委員として、留学生に対するビジネス日本語教育の道を拓く作業に加わることができました。そこではビジネス日本語の内容の検討やコース教員と協働でのプロジェクト型教材の作成¹など先進的な取り組みをすることができ、それは、コースのカリキュラム改善にも役立ちました。

ビジネス場面で通用するためには、問題解決力や異文化調整力を含めた総合的なコミュニケーション力が必要とされます。講義型の授業に慣れたアジア系の学習者は、自ら考え、インタビューなどを含めた情報収集をし、企画にまとめプレゼンをするといった授業に初めは戸惑いますが、それが多くの力を生むことに次第に気づいていくようです。

カリキュラムは、「口頭表現」「読解」「文書作成」「総合」「情報処理」からなるビジネス日本語科目群とマーケティング、アカウント



総合科目「コンビニ新規店舗企画プロジェクト(流通業)」の目的と流れ



学生企業家選手権最終選考の表彰式にて

する問い)がある②読むものを自分で決める③他者にわかりやすく内容を要約して説明する、の3つの要件を満たす言語活動と位置づけ、政治・経済・社会・家庭など、幅広いテーマの新書を中心に、「読む→レジュメの作成→発表→ディスカッション」という流れで、読解能力の向上を目指しています。また、「総合」の授業では、1年次は、団塊世代向けヒット商品企画、コンビニ新規店舗企画に、チームで取り組みます。学習者のふりかえりには毎回チームワークの重要性、シニアサポーター²の効果が記述されています。そして、2年次は、新規事業の企画案をゼロから考え、東京都主催の「学生企業家選手権」にエントリーします。2013年度は、3チームがセミファイナルに進み、1チームが最終選考に進みました。このように、「総合」の授業は、プロジェクト型授業で、ビジネス知識、ビジネススキル、問題解決力が育成される内容となっています。

教室外とのインターアクションを豊富に取り入れた体験型・実践型の授業を中心としたカリキュラムで、日本語学習が学習者のキャリアとなり、社会に繋がるものとなるのがこのコースの目的です。一期修了生は、日本の航空業界、ゲーム業界、アパレル業界などで、すでに中堅としてブリッジ人材の役割を果たしている様子を伝えてくれています。武蔵野大学大学院ビジネス日本語コースが卒業生のキャリア形成の一助となり、社会に繋がるものとなれば幸いです。

「読解」の授業では、「ビジネス場面の読解」を、①読む目的(探究

1 財団法人海外技術者研修協会(現HIDA)『留学生のためのビジネス日本語シリーズ-人財-』
2 武蔵野大学生涯学習講座「留学生をサポートするボランティア講座」を受講した主にビジネス経験のある市民



海外編

シンガポール



心に響く授業からグローバル人材の育成を

シンガポール国立大学語学教育研究センター所長補佐
ウォーカー 泉

シンガポールの「ビジネス日本語教育」

シンガポールは、1965年の建国以来、資源を持たない小国(東京23区程度)でありながら、急速に経済成長を遂げ、1人当たりのGDPでは日本を越す豊かな国となりました。その急成長に日本も多大に貢献してきたことから、政府によって日本語教育が積極的に推進され、大学や教育省語学センターなど主要な教育機関では千人規模の日本語教育が行われています。このような背景から、シンガポールには多数の日系企業が集中していますが、近年はASEAN進出の拠点としてより多くの企業が設立されたり、本社機能を日本から移転して来たりするようになりました。同時に、日本からもグローバル人材が求められるようになり、シンガポールの大学では、日系関連ビジネスで活躍できる人材の育成、すなわち、ビジネス日本語教育の重要性が高まっています。しかし、日系企業は就職先として取り立てて人気があるわけではありません。また、初級しか開講できない教育機関が多いことなどから十分な日本語レベルまで到達できる学習者が限られているという問題もあります。

このような中、私は8年ほど前から、シンガポール国立大学で「ビジネス日本語」を担当してきました。学生たちは初級を終えたばかりで敬語もままならず、ビジネス経験もありませんので、現実感を持って学習に励めるようさまざまな工夫を凝らしています。

「企業訪問プロジェクト」を中心として

この授業では学生がグループに分かれて日系企業を訪問し、日本人社員や先輩にインタビューをし、そこで学んだことを発表する「企業訪問プロジェクト」という活動を

行っています。訪問時間は限られていますが、その前後にもさまざまな学習を組み込むことにより、その機会を最大限に活かせるよう努めています。例えば、訪問前には、アポイントの取り方、電話のかけ方、インタビューの仕方などの「ビジネス会話」、挨拶、名刺交換、電話・訪問のマナーなどの「ビジネスマナー」、企画書・報告書、企業への依頼・確認メールの書き方などの「ビジネス文書」を学び、学生が実際に企業の方とアポイントを取ります。訪問後には、お礼の手紙や報告書を書いたりした後、発表、質疑応答、司会の仕方などを学び、日系企業の方々もお招きして「企業訪問発表会」を行います。このようなカリキュラムで授業を進めていくと、教室で学んだことの全てが実際の場面で実践されることになるため、学習意欲が倍増するのです。



「ビジネス日本語」の学生たち

楽しく体得できる「ビジネス会話」クラス

「パフォーマンス・エクササイズ」(『初級学習者のための待遇コミュニケーション教育』ウォーカー著・スリーエーネットワーク)というアプローチを用いて、『新装版ビジネスのための日本語』(スリーエーネットワーク)で基礎を固めた後、多様な場面に応用・拡大していくことにより、ビジネスマナーや待遇表現を含めた適切な言語行動ができるような練習を重ねています。その際、学生に馴染みのある『みんなの日本語』の登場人物を使って、教師はIMCの営業部長、学生はその部下や取引先となり、同



企業訪問風景(日本から参加した大学生とともに)

僚のミラーさんと一緒に新商品を開発し、販売戦略を練り、販売活動を行うといった一連のストーリーを展開すると、学生たちにとって難しい「ビジネス会話」も生き生きとしたものになっていきます。

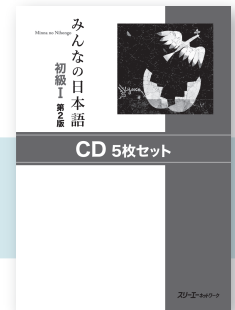
社会人としての人間性を育む「心の教育」

また、授業では「心の教育」にも力を注いでいます。どんなに丁寧な表現や正しいマナーを身につけても、心が伴っていなければ、心地よい人間関係を築くことは難しく、ビジネスの成功にはつながらないはずだからです。そこで、ビジネス関連の雑誌やサイトで成功した事例などを読み、学生主体でディスカッションを進めています。例えば、お客様に接する際に腰をかかめてお客様の視線で話しかけることの意義を説いた日系航空会社の話や、紙袋を閉じるテープの端を折ることでお客様が開けやすいように配慮しているトップセールス社員の事例などを読むと、学生たちは自国文化との大きな違いに最初は笑い飛ばしてしまいましたが、次第に心のこもったサービスやきめ細かい配慮の大切さに共鳴するようになります。同時に、訪問先の企業の方々から温かい励ましをいただいたり、日系ならではの企業理念や仕事への真摯な態度に感銘を受けたりして、日本への興味や関心が一層高まってきます。このようにして、心に響く体験を重ねていけるような学習環境を創造し、人間性を育てていくことは、「ビジネス日本語教育」にとって極めて重要であり、グローバル人材の育成につながるのではないかと考えています。

教材紹介

『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版 CD5枚セット』

スリーエーネットワーク 編著
CD5枚 8,000円+税 年内発行予定



文法構造や発話意図に配慮した自然な日本語

山梨大学国際交流センター
江崎哲也

『みんなの日本語初級』は日本語を教えるいらっしゃる方なら、どなたでもご存じのことだと思いますし、使ったことがある方も多いのではないのでしょうか。私自身も長年大変お世話になってきたこの教材、非常に使いやすいのですが、CDの音声には少々「不満」がありました。それは、ほかの多くの初級日本語教材のCDと同じような気がすると感じていたからです。

語学テキストの付属CDの音声というと、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。「なんか不自然」、「教室で聞かせると、クスッと笑う人がいる」、「語学のCDの音声に、そもそもそんなに期待しない」等々、あまりいいイメージや期待は持たれていないのではないのでしょうか。そのように思われるのは、大げさすぎたり、演技が拙かったり、といったことも原因の一つではありますが、文が持つ文法構造や発話意図を無視して、とにかく（日本語学習者に聞き取りやすいように）はっきりと話すことが声優さんに求められてきてしまった結果だったのかもしれない。

しかし、故土岐哲先生は口を酸っぱくして「日本語学習者に提示する音声は、そのまま教室外で使っても問題のないものでなければならぬ」とおっしゃっていました。例えば、「そうですね。」というたった一言でも、イントネーションによっては人間関係を壊すことになりかねません。学習者は教師が提示する音声を「間違いない」と思ってそのまま真似をするわけですから、当然、責任重大なわけです。そこで、土岐先生は日本語教材の音声についてさまざまな研究、取り組みをされ、日

本語教材の「音声監修」も行ってこられました。私はそのお手伝いをさせていただいた御縁もあり、今回『みんなの日本語 初級 第2版 CD5枚セット』の音声監修をさせていただきました。

「音声監修」と申しまして、ピンとこない方も多いかもかもしれません。「3、2、1、スタート!」とキューを出したりしているわけではありません。また、「音声監修って、アクセントの訂正してるの?」と聞かれることも多いのですが、声優さんも収録前にしっかり調べてくるので、実はアクセントの訂正はほとんどしていません。音声監修の主な仕事は、声優さんの選定、収録前の下調べ、収録当日の立ち会い、収録後の音声のチェックなどです。中でも収録当日は、声優さんが大変なのはもちろんですが、私も大変です。収録する音声をその場で逐次チェックし、単音、アクセント、イントネーション、ポーズ等が適切か判断し、声優さんに伝えていきます。単音やアクセント、ポーズに問題があっても、セカンドテイクでこちらの意図通りの発話になることが多いのですが、イントネーションはそうはいきません。特に文に備わっている文法構造や発話意図を、音声にそのまま反映するのは難しく、こちらの意図通りになるまで、手を替え品を替え指示を出していくことになります。

例えば、「東京は今何時ですか。」という文は、単独で発話される場合と、「ロンドンは今何時ですか。」「北京は今何時ですか。」という2つの質問の後に発話される場合とでは、大きく異なる点があります。単独で発話される場合は「東京は」も「今」も「何時」も高いのですが、同じような質問をした後で発話する場合は、「東京は」は高く、「今」と「何

時」は少し低くしなければなりません。もし全部高く発話したら、それを聞いた人は「馬鹿にしてるのか!」と怒ってしまうことでしょう（聞き手との関係によっては、「東京は…」しか言えない場合も多いですね）。同じ文は同じように発話するというを長年求められてきた声優さんだからこそ、難しい点も多々あるわけです。

上記はほんの一例ですが、こういった一見細かいと思われるような点にまで気を配って、本CDの収録は行われています。単音やアクセントを実現するだけでは、（誤解を恐れず言うなら）ロボットの音声となら変わりません。イントネーションも文末の上げ下げだけに気をつけていればそれでいいわけではありません。ぜひ、本CDを授業内で、あるいは授業の参考として使っていただき、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 CD5枚セット』収録内容

本冊「はじめに」の
Ⅰ. 日本語の発音
Ⅱ. 教室のことば
Ⅲ. 毎日のあいさつと会話表現
Ⅳ. 数字

第1課～第25課までの
・新出語彙(ことば)
・文型
・例文
・練習A
・練習B
・練習C

*すべて日本語のみの収録です。
*本冊の「会話」「問題」の音声は、本冊に添付されているCDをご利用ください。

『みんなの日本語 中級Ⅱ 教え方の手引き』

スリーエーネットワーク 編著

本文 240 頁 2,500 円 + 税



ボトムアップからトップダウンへ

『みんなの日本語中級』教材作成委員会 代表

鶴尾能子

「みんなの日本語」シリーズの「初級」から『中級Ⅰ』（中級前期）までは、語彙や「文法・練習」を一つ一つ積み上げ、それから会話練習をする、文章を読む、書くなどの学習活動に進むという学習方式を採用し、学習成果をあげてきました。しかし『中級Ⅱ』（中級後期）では、まず文章や会話の大意を把握してから「文法・練習」を行うという学習方式に切り替

えました。

中級後期のこの段階で、この学習方式の切り替えなしには、現実の言語使用場面での的確な内容把握が求められても、素早く対処できないと考えたからです。

「中級から上級へ（中級後期）はハードルが高い」とか「一冊で、読む・書く、話す・聞くを総合的に指導するのは無理ではないか」と、感じている方がおられれば、是非この『教え方の手引き』をご参考にして頂きたいと思います。

本書の構成

第Ⅰ部：『中級Ⅱ』全体の編集方針、構成、内容及びその使い方

第Ⅱ部：教え方の概要説明及び「各課の教え方」。学習活動の柱となる「読む・書く」（読み物）「話す・聞く」（会話）の目標と学習項目、また学習の基盤となる「文法・練習」の解説と留意点、実際の教室活動の進め方及び留意事項の解説

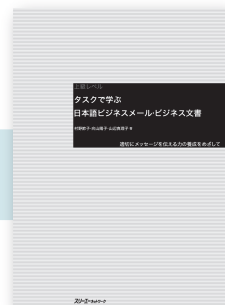
第Ⅲ部：資料編（文法項目と提出語彙、学習漢字五十音順索引、文法 プラスアルファ 意味・機能／提出語彙）

タスクで学ぶ日本語ビジネスメール・ビジネス文書

一適切にメッセージを伝える力の養成をめざしてー

村野節子 向山陽子 山辺真理子 著

本文 92 頁 別冊 48 頁（予定） 1,400 円 + 税



実社会への橋渡しとなる、ストーリー仕立てのタスク

武蔵野大学

村野節子

本書は日本企業や海外の日系企業に就職を希望する留学生のためのビジネスメール・ビジネス文書のテキストで、会話教材『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』（スリーエーネットワーク）の姉妹編です。

日本企業や海外の日系企業に就職を希望する日本語学習者の多くは、会社に入ってから適切なビジネスメールや議事録・報告書が書けるだろうかと不安に感じています。本書はそのような日本語学習者のために現実のビジネス場面で遭遇する可能性が高い状況を選び、「タスク」として作成しました。


すべてのタスクは、単にビジネスメール、文書で使用される語彙・表現をそのまま写すのではなく、「何をどのように書けば効果的なのか」を考えさせるものです。「自ら考えて書く」ことが求められるタスクを繰り返すこと、実際に会社で「使える」ビジネスメール、文書作成の能力養成を図りました。

本書は、6場面の UNIT、全 14 課の構成になっています。各 UNIT 内の課は、それぞれ関連し、かつ全体を通してストーリーがあります。一連のストーリーを通して登場人物がさまざまな状況下で「書く」作業に携わっていくため、学習者は実際に会社の一員になった感覚でタスクに取り組むことができ、実社会へのソフトランディングのき

かけを作ることができます。

各課には、タスクに入る前に使用頻度の高い語彙・表現を取り上げた「役立つ表現」と「練習問題」があり、タスクで必要とされる表現を押さえることができます。また、本書の一番の特徴であるタスク形式の問題は「状況（タスクを行う状況・場面の説明）」「タスク」「考えよう（タスクを行うためのヒント）」で構成されているので、学習者は状況、内容を十分理解した上で問題に取り組むことができます。

なお、本書に登場する人物・会社は『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』と同じ設定です。2冊を併用することで総合的なビジネス日本語能力の養成に役立ちます。



なんでも情報 BOX

Books ほん

日本語教育叢書「つくる」聴解教材を作る	9月発売予定	2000円
新完全マスター 文法 日本語能力試験 N4	9月発売予定	1200円
みんなの日本語初級 第2版 やさしい作文	9月発売予定	1200円
みんなの日本語初級II 第2版翻訳・文法解説 イタリア語版	9月発売予定	2000円
みんなの日本語初級II 第2版翻訳・文法解説 タイ語版	9月発売予定	2000円
みんなの日本語初級II 第2版翻訳・文法解説 ポルトガル語版	9月発売予定	2000円
タスクで学ぶ日本語ビジネスメール・ビジネス文書	9月発売予定	1400円
みんなの日本語初級II 第2版翻訳・文法解説 スペイン語版	10月発売予定	2000円

日本語教材まつり 2014「多様化する学習者のニーズに応える文法教育力」 in 福岡

日時：8月23日(土) 10:30～17:30

(10:00 受付開始)

会場：九州大学国際ホール 箱崎キャンパス

(福岡市東区箱崎6-10-1)

内容／スケジュール(予定)

10:30～10:40 ご挨拶

10:40～12:00 基調講演

「文法」は楽しい!

講師：小林ミナ(早稲田大学大学院日本語教育研究科)

皆さんは、文法が好きですか。日本語教育の講演や研修会などで、こう問いかけても「好き!」という答えはほとんど返ってきません。「どちらかと言えば嫌い」「嫌いというか苦手」「好きじゃないけれど、日本語を教えるなら避けては通れない」といった声が圧倒的です。本講演では、言語素材、教室活動、教材を手がかりに、「日本語教師が『文法』と楽しくつき合う方法」について考えます。

13:00～14:20 研修会①

日本語教育の中での「文法」～何をどこまで学ぶものなのか～

講師：西川寛之(明海大学外国語学部日本語学科)

教材：『日本語文末詞の研究』

「文法」と聞いて何を思い浮かべますか?日本語教育の教材で取り上げられる文法には、何がどこまで含まれるのでしょうか。国語の時間に勉強する文法は、日本語を既に使用している人が自分の言葉について考えるよい題材です。では、日本語教育で取り上げられる文法は、どのような目的で学ばれているのでしょうか。文法がいつ、どのような役に立つのかを考えてみましょう。

14:30～15:50 研修会②

新しい視点で文法を斬る—哲学としての文法

講師：桑島卓男(公益財団法人京都日本語教育センター京都日本語学校)

教材：『日本文化を読む 初・中級編』

「文法は思想である」—京都日本語学校では、このような哲学の下、毎日の教室活動を行っています。「文法」というと動詞の活用や助詞など、“細部”を連想しがちですが、もっとダイナミックに日本語特有の“考え方”を教えられないだろうか。『日本文

化を読む 初・中級編』は、そのような考え方で編纂されました。学生の声も紹介しながら、大きい意味での“文法”について考えていきたいと思えます。

16:10～17:30 研修会③

文法を体系的に考える—文法の全体像の捉え方について

講師：原沢伊都夫(静岡大学国際交流センター)

教材：『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』日本語の教科書では、様々な文法規則をわかりやすく解説し、豊富な例文と練習問題によって学習者への定着を図ります。日本語教育者にとって文法とは日本語を教える上で必要不可欠な知識であると言えます。しかし、述語の活用やテ形、テイル形などの種々の文法事項に詳しい教師であっても、それらが文法の全体像の中でどのような位置を占めるのか、意外と知っている人は多くありません。今回の研修会では、文法を体系的に考えることの意義をお伝えし、文法の全体像の捉え方について皆さんと一緒に考えていきます。

参加費：1,000円(税込)

定員：120名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

申込み：イベント名、開催日時、申込者氏名、住所、電話番号、メールアドレスを下記宛にご連絡の上お申し込みください。

問合せ/申込み先：凡人社(営業部坂井)

千代田区平河町1-3-13 ヒューリック平河町ビル8階

TEL: 03-3263-3959 FAX: 03-6733-7887

E-mail: ksakai@bonjinsha.co.jp

主催：アルク、スリーエーネットワーク、凡人社

協力：九州日本語教育連絡協議会

『みんなの日本語 中級II』を使った中級後期の教え方

—ボトムアップからトップダウンへ— in 東京
中級後期段階の学習者は、現実の言語使用場面に対処できるようになるために、より速くよりの確に内容を把握することが求められます。そのため、『みんなの日本語 中級II』ではトップダウンの手法で課題にアプローチし、中級後期に必要な力を獲得することを目指します。

また、本書は『中級I』同様、「読んで書く」「書いて

話す」「話して聞く」「聞いて読む」が有機的に繋がって、4技能がバランスよく習得できるように作られているのも特長です。

この講座では、具体的な授業の流れや活動の進め方などを例示しながら、中級後期の授業について考えてゆきます。

講師：田中よね(『みんなの日本語 中級II 教え方の手引き』執筆協力者)

日時：10月25日(土) 13:30～16:00

(13:00 受付開始)

会場：TKP 麹町駅前会議室ホール8A(東京都千代田区麹町3-2 麹町共同ビル8階)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

参加費：無料

問合せ/申込み先：スリーエーネットワーク講座係

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: kouza@3anet.co.jp

<http://www.3anet.co.jp>

102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル2F

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記の上お申し込みください。

主催：スリーエーネットワーク

Ja-Net | No. 70 季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2014年7月25日発行

●発行人 藤寄政子

●発行所 (株)スリーエーネットワーク

営業広報部 Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4

トラスティ麹町ビル2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: sales@3anet.co.jp

<http://www.3anet.co.jp/>

●印刷 日本印刷(株)

© 2014 by 3A Corporation Printed in Japan

(禁無断転載)

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第71号は2014年10月25日発行です。